

序 章

1. 自己点検・評価における大学の姿勢

1991（平成3）年の大学設置基準の大綱化により、各大学は、自主的に個性化、高度化および活性化を進め、教育研究活動の質的水準の向上並びに社会的使命の達成を目標とし、自己点検・評価の実施に努めることが求められた。これを受けて、金沢医科大学における自己点検・評価は、1992（平成4）年度に発足した将来構想委員会の基に教育・研究・診療活動評価に関する委員会が組織されたことから始まった。

1993（平成5）年3月には、本学の当面の課題と改善への提言をまとめた「将来構想委員会報告書（中間報告）」が学内に公表された。教学や病院部門の各種委員会においては、教育研究及び診療活動の重点課題等について、随時、点検・評価が行われ改革が進められてきた。

1995（平成7）年10月には、「学校法人金沢医科大学点検評価規程」を制定し、定期的・継続的に点検・評価を行う組織体制を整備するため、運営主体である評価運営委員会、基本問題検討委員会を発足させ、同規程に基づく教育研究活動の自主的な点検・評価に努めてきた。

2002（平成14）年度には、財団法人大学基準協会に対して「加盟判定申請」を行い、2003（平成15）年4月1日付で「正会員」として加盟・登録の承認を受け、その後、「点検・評価報告書」、「大学基礎データ調書」ならびに「加盟判定審査結果」などの全容を取りまとめた「点検・評価報告書2002年度」を刊行し、学内外へ広く公表した。

2006（平成18）年度には、全学的な自己点検・評価を実施し、大学基準協会による2007（平成19）年度大学評価ならびに認証評価を受審した。

評価結果は「大学基準に適合している」と認定され（認定期間は、2008（平成20）年4月1日から2015（平成27）年3月31日）、大学基準適合認定証と認定マークが交付された。大学基準協会の大学評価（認証評価）の結果と併せ「点検・評価報告書2007年度」を刊行し、大学ホームページにも情報公開し、学内外へ広く公表した。

その後も、評価運営委員会等のメンバーを随時更新し、大学基準協会からの指摘事項を踏まえながら継続的な自己点検・評価活動を行い、現在に至っている。

今回、大学基準協会の正会員として2度目の認証評価を受審するにあたり、基本問題点検評価委員会が点検・評価項目にそって自己点検・評価を行い、評価運営委員会が全学的な立場で内容を検討し、「点検・評価報告書2014年度」、「大学基礎データ」を作成した。

このような点検・評価活動を通して大学を構成する教職員全員の意識改革を促し、浮き彫りにされた様々な改善事項や将来の方策について、これからも真摯に取り組んでいくことが、大学の質向上につながっていくものと確信している。

2. 前回認証評価（大学）以降の改善・改革の概要

2007（平成19）年度に大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受審し、「大学基準に適合している」と認定されたが、指摘事項として4つの助言と1つの勧告をうけた。

指摘事項については、これを是正する措置を講じるとともに、その改善状況を取り纏め

た改善報告書を大学基準協会へ提出し、「提言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。」との概評であったが、「医学部では、収容定員に対する在籍学生数比率が 1.06 と依然として高いので、次回大学評価申請時に改善状況について再度報告されたい。」と再度の報告を求める事項が通知された。

改善報告書提出時は、進級・卒業時における質を保証するための検証システムの確立を通じて、留年の防止と適正な在籍学生数の実現に向けて改善に努めていたが、結果的に在籍学生数比率の数値の改善には結びつかなかったため、2009（平成 21）年度に再度、各学年の進級判定基準を見直した結果、一時的に留年生は増えたものの、基礎学力をしっかりと身につけた学生が進級する制度を確立した。

2010（平成 22）年には、第 6 学年の学習の拠点として「スチューデント・ドクター医局（通称：SD 医局）」を設置し、教材の充実などグループ学習の環境整備を行い、第 6 学年の学力強化にも取り組んできている。